

## 第5回人の活躍WG 各委員等からのご意見

## これからの時代に求められる人材像について

- 安定的高成長の終焉を受け、イノベーションを生む「個性」や「異端」という能力が求められるし、潜在的な需要を掘り起こすためには消費者の感動や笑顔を生む「感性」も必要。さらには、不確実性の増大に対応できる「柔軟な発想」、「自ら考える力」や「タフネス」が非常に重要となる。
- 学力で計れない非認知能力というものが、実はその後の人生で非常に大きな影響を与えているという研究がある。非認知能力は幼年期に養われると言われてきたが、最近の研究だともう少し大きくなってからも伸びる余地があるものとされている。また、認知能力を伸ばす中で非認知能力を高めることも可能だと思う。
- 非認知能力というものを理解するために、もう少し個々の要素に分けると、ビッグファイブ（真面目さ、開放性、外向性、協調性、精神的安定性）という要素がある。特に、「真面目さ」については、その後の就職・賃金等への影響が大きいと分析されている。
- 企業の立場から、非認知能力の重要性や養成可能性に関しては共感できる。
- 非認知能力については、実際に企業に入り、困ったことを解決するために考える過程で身につくもの。いろいろな仕組みを作るより、とにかく企業に入ってもらって鍛えた方がよいのではないか。
- 企業は主体性やチャレンジ精神、協調性を重視しているということだが、それが期待されない非正規雇用が増えているのが現状。企業の中でこういう能力を身につけることを考えるべきだが、必要であれば政策的なてこ入れも考えるべき。
- イノベーションを起こせる人が必要という共通認識は得られていると思うが、どうやってそれを教育するか、という部分の掘り下げが必要。具体的にどのようなイノベティブな人を育てたいかという認識を深めるとともに、他国の成功例を学ぶことも重要。

- 認知能力も非認知能力も人間として必要だが、それらは、子どもにせよ大人にせよ、経験でしか養えないものだと思う。
- 求められる人材像について、「性格力」と言うと、就活する学生にデッドエンド感を与えるので、何か別の希望があるような言葉で代替することができないか。
- 企業が求める人材像として、語学力と学業成績を重視していないという経団連のアンケート結果については違和感がある。
- 英語については、流暢にしゃべることが重要だと勘違いする学生が多いが、重要なのは話す中身。自分の意見、自分の中身を伝えきっていく力を伸ばすことが重要。
- イノベーティブな人材の養成とともに、その人材を活かす社会的な土壌も必要。
- 企業が必要とする人材だけを重視するのではなく、いろいろな人材を生かしていける社会、というのが重要ではないか。

#### 子ども期における人材育成について

- 可塑性の高い初等教育段階から長期にわたって計画的に人材を育てていくことで、性格や非認知といった部分もカバーできるのではないか。
- コンピテンシーが求められるようになったのは、
  - ・ 社会構造や産業構造の変化の中で、要請されるスキルが定型的なものから非定型的なものに変わったこと、
  - ・ 終身雇用・年功賃金の崩壊により、思考・判断、発想・構想、他者との協働、自己調整の能力が求められるようになったこと
 に起因している。そして、これらの能力が、一部のトップエリートだけでなく、全ての人に求められる時代になったと考えている。
- 既に多くの先進国では、教育施策のレベルで、コンピテンシー、あるいはキー・スキル、汎用的能力、ジェネリック・スキルと言われるようなものを、コンテンツと並んで一つの軸に据えた複眼的な目標論とかカリキュラム構成論を生み出して進んでいる。

- 日本でも、「総合的な学習の時間」など、コンピテンシーに属するようなものを学力論に位置付けて文教施策の中で展開をしているし、小学校を中心に、だんだんいい実践が出てきている。
- 確率論的なものの見方で社会事象を読み解くなど、学問領域を越境することで、現実の社会問題や自分の生き方を切り開いていくようなコンピテンシーを育てることができるのではないか。
- 教育課程の枠組み自体は現行で大きな問題はなく、カリキュラムの大枠を変える必要はないが、コンピテンシーの視点でこれまでの教育内容を再編成することはありうると思う。小学校ではよい取組が行われているが、中高はコンテンツ・ベースから抜け出せずにいるので、変革を要するかもしれない。
- 初等教育か中等教育の頭くらいから、デザインシンキングなどをカリキュラムとして作っていくとよいのではないか。イノベーターな人を養成する強化校のようなものを置くことも考えられる。
- 日本の教育は、欧米諸国と比較した時、部活等を通じて真面目さや協調性などの性格スキルをしっかりと教えるところに良さがある。一方、大学教育については、試験だけによる選抜方式、教員の教えることに対する熱意の低さ等の問題があると考えている。
- 大学受験を改革し、全人格的教育を充実させていくことが重要。
- 学校教育の場は、かつては安定と抑圧がセットだったが、今は自由と不安がセットになっている。その点を共有し、学校あるいは教師の文化を変えていく必要がある。
- 教育現場の問題はあると思う。入学試験の問題、学校の現場の問題、個々の先生方の力量の問題等、いろいろな問題があるのだと思う。

(○：人の活躍WG委員のご意見、●：有識者のご意見)